

第18回 ちゅうでん教育振興助成（平成30年度）

報告書資料 一般 - 22

学校名・団体名	横浜市立上菅田特別支援学校
コース	学校支援
活動・研究のテーマ	特別支援学校におけるスポーツを通じた地域交流

〈活動・研究の意義および活動報告〉
(活動に至る経緯)


本校は近隣小・中学校との交流教育が盛んである。子ども同士の関わりあい、地域交流を深めることをねらいに、2020年東京パラリンピックの正式競技である「ボッチャ」を中心とした交流を推進した。

(活動時期・内容)

◎地域交流 平成30年 7月 関東さわやかボッチャ大会の運営
12月 ENJOY BOSAI 2018～防災をバリアフリーに～ 体験ブース設置

ボッチャ競技の普及、スポーツを通して新しい人との出会い、指導者の指導力向上を目的に大会を開催した。子どもから大人まで関東地域のボッチャ競技愛好者が集い、熱戦が繰り広げられた。

ENJOY BOSAI 2018でも体験者が集まり、ボッチャ競技への関心が高まっている様子が感じられた。ボッチャ競技を通じた交流が、多くの人の余暇の楽しみ方の一つとなっている。



ENJOY BOSAI
2018の様子

◎学校間交流

平成30年 9月 本校小学部児童と横浜市立上白根中学校生徒とのボッチャ競技交流
10月 本校小学部児童と横浜市立上白根中学校生徒合同で神奈川ボッチャ大会に出場
(タウンニュース保土ヶ谷区版 平成30年10月18日号 掲載)
12月 本校児童生徒と横浜市立上菅田中学校生徒とのボッチャ競技交流①
31年 1月 本校児童生徒と横浜市立上菅田小学校児童との親子ボッチャ競技交流会
(神奈川新聞 平成31年1月29日号 掲載)
(タウンニュース保土ヶ谷区版 平成31年1月31日号 掲載)
2月 本校児童生徒と横浜市立上菅田中学校生徒とのボッチャ競技交流②
3月 本校児童生徒と横浜市立上白根中学校生徒合同でほどがやボッチャ大会に出場

ボッチャ競技に初めて取り組む子どもたちが多かったが、短時間でルールを理解し、競技を楽しむ様子が見られた。継続した取組がよりよい関わりにつながると考え、合同での大会の出場、講師による実技指導など内容を工夫しながら、交流を進めた。



横浜ボッチャ協会の川崎妙子様、ボッチャ元日本代表の秋元妙美様を講師に迎え、体験会を実施

◎近隣小・中学校職員交流講習会

平成30年 7月 横浜市立上菅田小学校

9月 横浜市立上白根中学校

12月 横浜市立大曾根小学校

31年 1月 横浜市立本宿小学校

ボッチャ競技の普及、人権教育への活用をねらいに本校職員が講師となり、ボッチャ競技職員交流講習会を実施した。講習会を経て、実際に学級、学年で取り組む動きが見られ、小・中学校における人権教育推進につながることができた。職員交流が行われることで、特別支援学校の取組を一般小・中学校と共有、活用につながった。



上菅田小学校の講習会



本宿小学校の講習会

◎放課後ボッチャ同好会の立ち上げ

研究を推進する上で、地域社会との交流をねらいの一つとした、放課後ボッチャ同好会を立ち上げた。ボッチャ競技を通して、自らの存在を社会に発信したり卒業後の余暇活動の充実に繋がったりすることが期待できる。



練習会の様子

(子どもたちへの効果)

ボッチャ競技を見て、聞いて、体験するといった具体的な取組を重ねることで、子どもたちが全ての人々が認め合い、共存できる社会の仕組みづくりの担い手として、考えることができる実践となった。子どもたちや保護者からの感想にもそのことは表れており、「色々な人と簡単にできるところがとてもいい、また交流したい。(子ども)」「特別支援学校の友だちと一緒にできてうれしかった。(子ども)」「一緒に行くことで他者に対する配慮や優しさを育むことができました。(保護者)」「近所でありながら交流の機会はなかったが、ボッチャを通して良いコミュニケーションの場だった。(保護者)」「子ども同士、すぐに仲良くなり嬉しく感じた。回を重ねる毎に子どもに少しずつ自信がついてきた。(保護者)」等の言葉が見られた。これからの特別支援教育の中で、共生社会につなげるためのバリアフリーの感覚を高めるに、ボッチャの活用が広がることを期待している。